

先進技術実証機

○瀧澤 義和

(防衛省技術研究本部技術開発官(航空機担当)付)

特徴

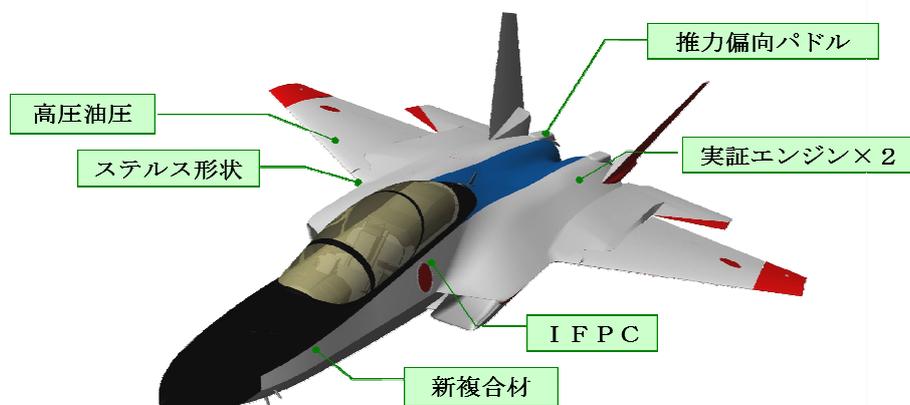
将来の戦闘機に適用される機体、エンジン等の各種先進技術のシステム・インテグレーションを図った、高運動ステルス実験機である。実環境下において、システムの成立性を確認するとともに、運用上の有効性を検証するために用いる。

概要

戦闘機には、常に時代の先進技術が結集されており、現在、米国のF-22Aに代表されるステルス性や高運動性、先進的アビオニクス等を備えたいわゆる第5世代機が圧倒的な戦闘力を誇っている。諸外国でも、ステルス技術等の第5世代機のキーテクノロジーについて研究が進められており、一部の国では、既に実機の開発が進められている。戦闘機を巡るこれら世界的趨勢は、今後一層加速されるとみられることから、我が国でもこれら技術の成立性や運用上の有効性等を検証するとともに、第5世代機に対する防空態勢のあり方についての検討を加速しなければならない。

先進技術実証機は、かかる認識の下、技術研究本部が先行的に行ってきた要素技術研究である実証エンジン、高運動飛行制御システム及びスマート・スキン機体構造等の研究成果を踏まえ、これら技術のシステム・インテグレーションを図った高運動ステルス機を試作し、実環境下においてシステムの成立性を確認するとともに、運用上の有効性を検証するものである。本事業は平成21年度より着手し、製造設計を経て、現在機体を製造中である。今後、平成26年度の初飛行の後、約2年間飛行試験を行う予定である。

当日は、先進技術実証機の概要及び今後の試験計画等について発表する。



IFPC: Integrated Flight Propulsion Control エンジン・飛行統合制御

図1 先進技術実証機の概要